

政治参加の在り方について考える主権者育成を目指す中学校社会科学習

1 校種・教科・科目（分野） 中学校・社会科・公民的分野

2 単元名 主権者に求められる政治参加とは？

3 学習指導要領上の位置付け C（2）民主政治と政治参加

4 カリキュラムマップとの関連性 市民の権利と責任 平和で安全な社会

5 単元目標

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
民主政治を実現するための政治参加の方法について理解できる。	政治参加の課題について、政治参加の方法の運用や活用の実態などに着目して多面的・多角的に考察し、表現することができる。	既存の政治参加をめぐる課題をふまえ、その解決を目指すより望ましい政治参加の在り方について考えようとしている。

6 単元の特色（教材観）

本単元は、民主主義社会の形成者としての主権者育成を目指して、政治参加の方法を理解し、その課題の考察・構想を通してより望ましい政治参加の在り方について探究する授業構成となっている。

中学校社会科公民的分野の学習指導要領 C（2）民主政治と政治参加では、「地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成」するために、「民主政治の促進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し表現する」学習活動を展開することが想定されている。

これに関連して、現行の学習指導要領解説に基づいて、小中高等学校の社会科・公民科における「政治参加」に関する内容を整理したものが以下の表1である。

表1 「政治参加」に関する内容の整理

	主な学習内容	特徴
小学校社会（第六学年解説 pp.100-101.より）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の意義、民主政治の原理・働き。 ・立法，行政，司法の三権の役割。 	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法や民主政治と国民生活との関係性に気付かせ、その重要性を捉えさせることを主なねらいとしている。 （問いや活動の例） 日本国憲法の基本的な考え方はどのようなものか，国会，内閣，裁判所はそれぞれどのような役割を果たしているか，国会，内閣，裁判所

		はどのように関連しているか
中学校社会（公民的分野解説 pp.156-157より）	<ul style="list-style-type: none"> ・(1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則（基本的人権、法の意義、法に基づく政治、日本国憲法の原則、天皇の地位と国事） ・(2) 民主政治と政治参加（民主政治の仕組み、政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理と運用の在り方、裁判の役割、地方自治の仕組み、住民の権利や義務） 	<ul style="list-style-type: none"> ・(1) の内容は、小学校の内容と共通性がある。 ・民主政治を推進するための「政治参加」として、「公正な世論の形成や選挙など」が挙げられている。 （問いや活動の例） ・議会制民主主義が取り入れられているのはなぜか（なぜ議会を通して政治が行われるのか）、民主政治をよりよく運営していくためにはどのようなことが必要か、自治とは何か、
高等学校公民科（「公共」解説 pp.60-63.）	<ul style="list-style-type: none"> ・(イ) 政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれることを理解する。 ・(エ) 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報活用に関する技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世論形成に影響をもたらすマスコミなどの主体の働き、地方自治の仕組みに関しては中学校の内容と共通性がある。 ・参政権の行使である選挙の意義、政治的無関心の増大による危険性についての理解が目指されている。 ・公的な問題や課題に関する議論や情報活用を重視した学習活動の充実。 （問いや活動の例） ・議会制民主主義を通して私たちの意思を反映させるためにはどうすればいいか、情報化やグローバル化が進む中で公正な世論はどのように形成されるか。模擬選挙、模擬議会の開催。

（学習指導要領解説に基づき著者作成）

上記の表1に基づく小学校社会科の政治学習では、政治の働きやその意義について理解を深めることが重視されているのに対し、中学校や高等学校では政治参加の方法や仕組みを捉え、それが民主政治の促進に寄与することを理解し、社会に関わることに意味を見出す主権者として必要な資質・能力を育成することに力点が置かれていると言える。

このような学習指導要領の趣旨をふまえると、民主政治と政治参加の授業づくりの視点として次の点を挙げることができる。第一に、政治参加の方法について子どもが具体的にイメージできる絵本教材を活用したり地域社会で運用されている方法や制度を取り扱ったりすることである。今回は具体的な教材として、林木林／作・庄野ナホコ／絵『二番目の

悪者』小さい書房（2014年）を活用した。この絵本には国民が選んだ金のライオンによって国が滅亡するというエピソードが描かれている。このエピソードを読み、国が滅んだ理由について多面的・多角的に考察させることによって、政治参加の重要性に気付かせるとともに主権者として必要な力を具体的に考えさせることができる。第二に、既存の方法や仕組みについて、その有効性などの視点から批判的に考察する学習場面を設定することである。民意を反映するための既存の方法や仕組みをより望ましいものに改善し変革する主権者を育成するためには、政治参加をめぐる課題を把握し、それを解決するための方法を考える学習活動を展開する必要がある。今回は市民の意見を政策に活かすための仕組みとして、直接請求権の行使やパブリックコメントに関する制度を取り上げ、これらをめぐる課題について理解を深め、その解決方法を考える学習活動を行う。このような視点をふまえた授業づくりを通して、社会の改善や変革の主体としての主権者育成を目指すことができると考える。

7 単元計画

段階（時数）	学習活動	留意点
第一段階 政治参加の 意義の理解 (2時間)	○絵本『二番目の悪者』の感想を共有しよう。 ○なぜ、国が滅んでしまったのだろうか。 ○国を滅ぼさないために国民は何をすべきだったのだろうか。王の「選挙前」と「選挙後」に分けて考えよう。	・感想の傾向を把握して、子どもに提示する。 ・選挙前と後で国民の判断や行動を考えさせることで、主権者として必要な行動のあり方を複数の視点から考えさせる。
	○現代社会の政治の仕組みについて確認しよう。 ○絵本の世界のように、よりよい社会を実現するための政治が投票だけでは上手く機能していない状況は、現代社会でもあるのでしょうか。 ○その問題はどのように解決されたのでしょうか。	・国民の意見を政治に伝えること。国民の思いや願いが反映されたよりよい政治や社会が実現されることに気付かせる。 ・絵本の世界の政治の仕組みと現代社会の政治の仕組みの違いに着目させることで、直接民主制（王政）と間接民主制について理解させる。選挙や投票は政治参加の方法であり、政治に民意が反映されることを確認させる。 ・幼稚園児の保護者や聴覚障害者が直面する問題（大阪市幼稚園登園時間のごみ収集に関する問題や徳島市長記者会見時の手話通訳の表示が見えにくい問題についていずれも市のHP「市民の声」にて確認した。）があることに気付かせ、解決方法を予想させる。 ・課題を抱える人々が市役所に意見を伝えることで解決したことに気付かせる。
第二段階	○よりよい社会を実現するためには、	・政治参加の方法は、投票だけでなく請

政治参加の 課題の考察 (1時間)	<p>どのように政治に関わる必要があるのでしょうか。</p> <p>○市民の意見を反映させるための方法や仕組みは効果的に活用されているのでしょうか。</p> <p>○なぜ、そのような課題が起きるのでしょうか。</p>	<p>願など様々な方法があることを理解させ、市民としての視点を生かして自分たちの意見を伝えることの重要性に気付かせる。</p> <p>・署名の偽造など政治参加の方法や仕組みに課題があることに気付かせる。</p>
第三段階 考察に基づく 構想 (1時間)	<p>○政治参加をめぐる課題を克服するために、主権者である私たちはどのように政治に関わる必要があるのでしょうか。</p> <p>○主権者にとって求められる政治参加について考えたことをワークシートに記入してください。</p>	<p>・既存の政治参加の方法や仕組みを活用するだけでなく、適切に活用されているのかを見守る必要があることに気付かせる。</p>

8 カリキュラム・マネジメント

1時間目の授業は、道徳や総合的な学習の時間などで実践することも可能である。例えば、社会科と道徳教育との関連性について中学校学習指導要領解説総則編には次のように示されている。

多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情は、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛することなどにつながるものである。また、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深め、自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、権利・義務の主体者として公正に判断しようとする力など、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することは、道徳教育の要としての「道徳科」の第2のCの[社会参画, 公共の精神]に示された「社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会生活の実現に努めること」などと密接な関わりをもつものである (pp.137-138.)。

このことから社会の形成者としての主権者に求められる資質・能力の育成は、道徳教育でも重視されている社会参画の意識や社会連帯の自覚を高めることで実現することができる。このことをふまえると絵本教材を活用した授業を道徳の授業として実践するならば、特に社会の形成者としての意識や自覚を高める指導を行うことが必要となる。

2時間目以降は、社会科の授業で行う。その際には、絵本教材を活用して学んだことと実社会で生じている課題を関連付けて、政治参加をめぐる課題について理解を深め、その解決方法について考える学習を展開する。このように民主政治を実現するために求められ

る政治参加の在り方を考えさせる授業は、社会科だけではなく他の教育活動と連動して実践することによって、教育的効果が期待できるのである。

9 本時の授業展開

ここでは、第一段階の第一時の授業について説明する。本時の概要を示したものが以下の表2である。

表2 本時の概要

	主な問い	予想される子どもの意見
導入	<p>○「主権者」とはどんなことができる人のことなのか？</p> <p>◎私たちは「主権者」としてどのようなことが、求められているのだろうか？絵本を読んで考えたことをふまえて発表しよう。</p>	<p>・みんなと協力できる人。きちんと働いて税を納めている人。社会にかかわろうとしている人。</p> <p>・様々な意見。</p>
展開	<p>○この国が滅びてしまった要因を考えよう。</p> <p>○国が滅んだ要因（①～④）の中で最も重要なのは何だろうか。</p> <p>○なぜ、この国は滅びてしまったのだろうか？また、国を滅ぼさないようにするためにはどうすればよいのだろうか？</p> <p>○国王の選挙前と後にわけて、国民はどうすればよかったかを考えてみよう。</p>	<p>・①金のライオンがついた嘘、②金のライオンの独裁、③動物たちがうわさを広めたこと、④銀のライオンが何もしなかったこと</p> <p>・様々な意見。</p> <p>・国が滅びたのは【国民が自分の意思で情報を確かめようとしなかった】から。国を滅ぼさないようにするためには、〈国民が政治に関心を持ち、情報の真偽を確認して判断すること〉が大切だ。</p> <p>・〈国王の選挙前〉情報が正しいかどうかを確かめる。</p> <p>・〈国王の選挙後〉抗議運動をする。もう一度選挙する。</p>
終結	<p>○なぜ、国が滅んだのか再度考えてみよう。</p> <p>○私たちは持続可能な社会をつくる主権者としてどのようなこと（資質や能力）を身につけていくことが求められるのだろうか。また、それを身につけるために、これからどのようなことを学んでいく必要があるだろうか。</p>	<p>・金のライオンのうわさを国民が信じたことだけではなく、独裁政治をとめる要求をしなかったことが考えられる。</p> <p>・様々な意見。</p>

本時の導入部では、「主権者」として必要な力（資質・能力）に対してイメージを持たせる学習活動を展開する。ここでは授業の開始前までに、絵本教材『二番目の悪者』を読ませてワークシートなどに感想を記入させておく。これによって、子どもは「私たちは『主権者』としてどのようなことが、求められているのだろうか？」という問いに対しても、

発表がしやすくなると考えられる。

展開部では、絵本教材に基づいて国が滅んだ要因について多面的・多角的に考察する学習活動を展開する。まず、国が滅びた要因をグループごとに発表させる。ここでは、①金のライオンがついた嘘、②金のライオンの独裁、③動物たちがうわさを広めたこと、④銀のライオンが何もしなかったことを想定している。それ以外の意見についても、教室全体で共有する。つぎに、国王の選挙前と後で国民はどうすればよかったのかを考えさせ、意見を整理させる。

そして、国王の選挙前後で、国民はどのような行動が必要となったのかという問いを投げかける。これによって、政治権力者を選ぶ時だけではなく選んだ後も民主的な政治が行われているのを見守るといった政治参加の重要性に気付かせることができる。なお、ここでは以下の図1や2のようにロイロノートのシンキングツールを活用すれば、意見の可視化や共有化をスムーズに行うことができる。

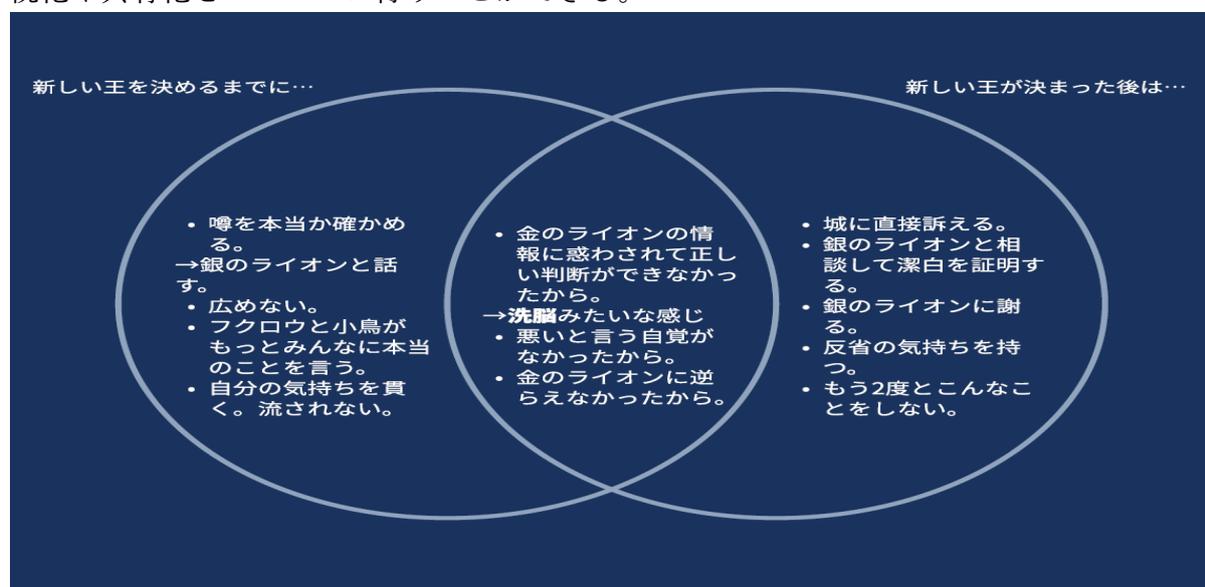


図1 グループで考えた意見（その1）

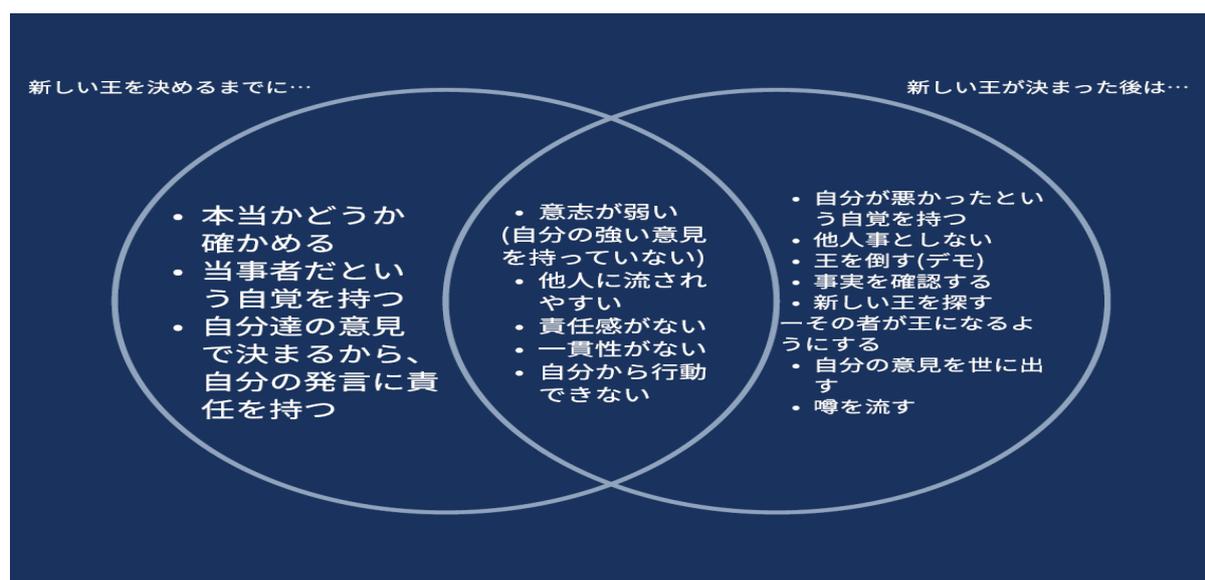


図2 グループで考えた意見（その2）

終結部では、これまで考えてきたことを関連付けて「主権者として必要となる力」につ

いて再考させる学習活動を行う。ここでは、「私たちは持続可能な社会をつくる主権者としてどのようなこと（資質や能力）を身につけていくことが求められるのだろうか。」「それを身につけるために、これからどのようなことを学んでいく必要があるだろうか。」という問いを設定することで、政治参加の方法について理解することの重要性に気付かせるとともに、今後の学習の見通しを持たせる。以下は、本時の授業後に生徒が記入した意見の一

問い①「私たちは持続可能な社会をつくる主権者としてどのようなこと（資質や能力）を身につけていくことが求められるのだろうか。」に対する主な意見

【生徒 X】

主権者として自分も社会の一員であることを深く考えなければいけないと思いました。理由として、人任せにしているだけでは自分も成長することができない上に一人一人が社会の問題について考えていく必要があるからです。ただそのためには、一つのことだけしか考えるのではなく、さまざまな点から考えたり、いろいろな問題などつなげたりして多角的・多角的に考えていく必要があると思いました。

【生徒 Y】

物事を冷静に見て、一つの意見、情報に流されず、複数の情報などを用いて考えていくことができる力が求められていくのではないかと思います。主権者として、適当に決めていくのではなく、あくまで主権があるので、その主権を大切に扱っていくような行動をしないといけないと思いました。

問い②「それを身につけるために、これからどのようなことを学んでいく必要があるのだろうか。」に対する主な意見

【生徒 X】

自分たちが社会により関わっていくためにはどのようなことが必要か？
→未来がどうあるべきかを踏まえて、さまざまな点から考察することが大切だと思いました。

【生徒 Y】

社会を冷静に見ていくためには、社会の仕組みや地方の仕組み、国際社会の仕組みなどについて理解する必要があると思うのでそのことについて学んでいきたいです。また、政治の仕組み、労働の仕組みなど、これから大人になるにつれてやらなければならない労働や、与えられる選挙権のためにも学んでいきたいです。

*生徒 X と Y は、それぞれ同じ生徒を示している。

部である。

問い①に対する記述内容の傾向として、社会問題などについて様々な情報を関連付けて判断し考えることが主権者として求められることに気付くようになっていくことがわかる。特に生徒 Y の意見にあるように、権利を行使することの必要性を感じるようになっていく点も注目すべき点である。

問い②に対する記述内容の傾向として、自分たちが社会と関わるための方法や仕組みについて学ぶことの必要性を感じるようになっていくことがわかる。このことから、政治参加や社会参加の方法や仕組みについて、具体的な事例を通して理解を深めるための指導を

充実させることが、生徒の関心をふまえた授業を推進することにつながるのである。

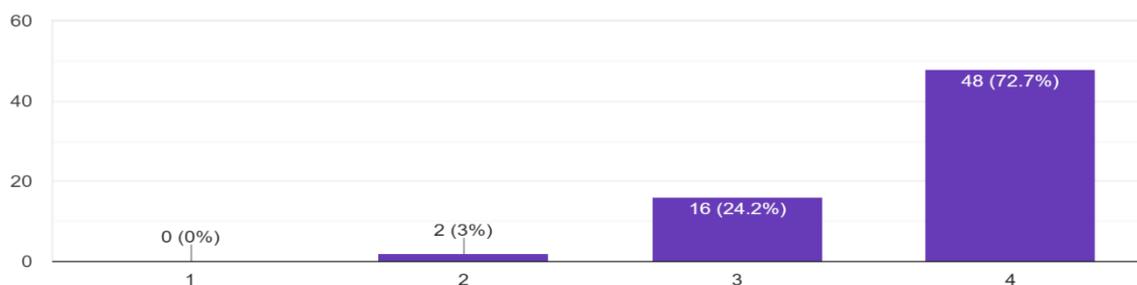
これ以降の授業では、現代社会における政治参加の方法についての理解を深めるとともに、政治参加をめぐる課題及びその解決のために重要になることを考える学習活動を展開する。特に、中学生であっても活用できる具体的な政治参加の方法があることに気付かせ、その社会的効果などに着目させることによって、政治参加と民主政治の関連性について理解を深めることができる。これによって、生徒は政治や社会参加の意味や意義を見出すことができるのである。

10 生徒の学習成果とその評価

本単元の学習の教育的効果を明らかにするために、政治参加や社会参加に関する意識調査のためのアンケートや生徒のワークシートの記述内容の評価結果の分析を行う（中学3年生66名を対象に、単元の学習後に実施したもの）。

（アンケート結果①）

①今回の授業を通して、政治参加の意義や重要性に関する考えを深めることができましたか。
66件の回答



（質問項目） そのように判断した理由についての主な意見（「考えを深めることができた」と回答した生徒）

上記のアンケート結果①より、本単元の学習を通して多くの子どもは政治参加の意義や

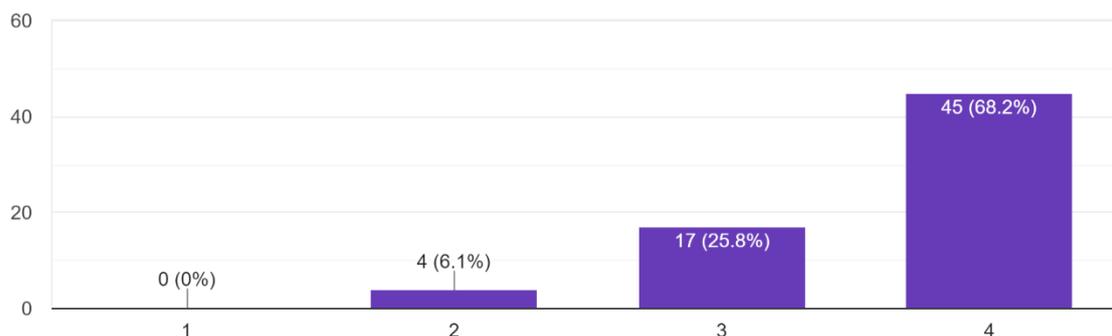
- 今までは他人事だと思っていたけど、今回の授業を受けて世の中をより良くしていくためには、やはり全員が自分の意見をしっかり持って、それを声にして届けることの大事さを改めて学ぶことができたから。
- 政治にあまり関心がなかったのですが、今回の授業を通して選挙だけでない政治のかかわり方を知ることができました。
- 政治に参加する方法は、選挙だけではないことが分かったから。
- 私は始め「政治」とか「選挙」という言葉を聞くと、どこか堅苦しくて難しい感じがして正直、興味もあまり湧かなかったし苦手でした。でも、「二番目の悪者」の絵本を読んでから授業を受けると、政治とかに疎い私でも政治に参加しなかったらこうなるというような具体的なことを想像することができたので自分もきちんとしなきゃなと思うことができました。
- 「二番目の悪者」を読んで、悪いことをした人だけが悪いのではなく、そのことについて自分からは何も行動せずに、周りに合わせて行動し、結果が悪くなったら文句を言う、という人も同じくらいだめだということに改めて気づいたからです。

重要性について感じたり考えを深めたりするようになっていくことがわかる。その理由としては、多様な政治参加の方法についての理解を深め、社会問題の解決の営みに関わることによる結果や影響について考察できるようになっている点を挙げるができる。

(アンケート結果②)

③ 今回の授業を通して、自分は責任がある社会の一員だと感じるようになりましたか。

66件の回答



上記のアンケート結果②より多くの子どもは、本単元を通して自己を責任がある社会の一員と感じるようになったことがわかる。このことから本単元は、自己と社会との関わりを実感させることができる授業モデルになっていると言える。

(ワークシートの記述内容：単元の学習後に記入した授業の感想)

- 今回授業を受けて、前よりもっと政治に興味が出てきました。受ける前までは、「政治」や「選挙」などの話を聞いても、どこか別世界のような自分と関係ないような気持ちになっていました。しかし、今回のこの授業のおかげで、自分も社会の一員なんだ、投票する権利はないけれどしっかりしなきゃなと気付くことができました。ちなみに、私が思った「二番目の悪者」は、町の人々かなと思いました。なぜなら自分の目の前に起きていることを傍観し、何も回復する方向に行動しなかったからです。自分は動くことができる人になりたいです。
- 授業を通して思ったことは、まず自分から行動していくことが一番だと思いました。ずっと思っていることを思うだけではなく、周りに伝えていかないといけない周りは動かないということを知りました。私たちが住んでいる社会でも選挙や政治活動、国民の意見がなければ動かずいつまでたってもずっと変わらないまま過ごしていくことになるだろうと考えました。
- 受け身に回るのではなく自分からいけんを言っていくことで、自分のため周りのためでもあり、またそのぎょうかいのリーダーの人にやっていることはまちがっているということを気付かせるきっかけになるのではないかと思います。

上記のワークシートの記述内容（下線部）から、本単元を通して自己を社会的な存在として自認するようになり、社会に積極的に働きかけることの必要性に気付くようになっていくことがわかる。このことから子どもは政治参加の意義を捉えることによって、主権者

意識が形成されていると言える。

1.1 「18歳市民力」育成に向けての提案

社会科の目標は、公民として資質・能力の育成であるが、この目標について学校現場では形式的なものとして捉えられていたのではないだろうか。学校の役割は、一般的にあくまで成人となってから発揮する資質・能力を育成する「準備教育」を実践することにあると捉えた場合、実社会の問題解決について判断したり議論したりする学習活動は行われにくくなるため、公民の育成は形式的なものにとどまってしまうと考えられるのである。このような従来までの学校の役割＝「準備教育」という見方を問い直し、公民育成を実質的なものにするためには、実社会の問題解決につながる公正な判断や市民的な行動を促すことに力点を置いた授業づくりを推進していくことが必要である。今回提案したような政治参加の方法や仕組みについての理解を深めるとともに、その課題の解決方法を考える授業を通して社会の担い手としての主権者意識の形成を目指すことが「18歳市民力」の育成につながるのではないだろうか。

(参考文献)

- ・ 林木林（作）・庄野ナホコ（絵）『二番目の悪者』小さい書房,2014年.
- ・ 唐木清志『子どもの社会参加と社会科教育—日本型サービス・ラーニングの構想—』東洋館出版社,2008年.
- ・ 唐木清志「社会科における主権者教育—政策に関する学習をどう構想するか—」日本教育学会『教育学研究』第84巻第2号,2017年,pp.27-39.
- ・ 桑原敏典・清田哲男『子どもが問いを生み出す時間』日本文教出版,2022年.
- ・ メイラ・レヴィンソン（著）渡部竜也・桑原敏典（訳）『エンパワーメント・ギャプ—主権者になる資格のない子などいない』春風社,2022年.
- ・ ガート・ピースタ（著）上野正道・藤井佳世・中村（新井）清二（訳）『民主主義を学習する 教育・生涯学習・シティズンシップ』勁草書房, 2014年.

井上昌善（愛媛大学）